

# はじめ新報

Vol.8

【編集・発行】  
船田はじめ事務所  
〒320-0043 宇都宮市桜木4-1-36  
サンチェリービル3F  
TEL 028-622-0030  
FAX 028-621-7924  
URL <http://www.funada.org/>



▲自民党科学技術創造立国調査会長として、大田経済財務担当大臣に「科学技術予算増額に関する要望決議」を提出しました。

昨年夏の参議院選挙は、与党自民党にとって歴史的な大敗を喫してしまいました。その原因として真つ先に挙げられるのが、事務所費の不明朗さが多く、議員から露呈し、あらためて「政治とカネ」の問題が噴出したこと。また5000万件という年金記録が宙に浮いた状態で発覚し、国民生活に大きな不安を引き起こしたことです。さらには今年から始まった新農政の一部に、中小農家切捨てとも受け取られる政策があり、農家の批判に晒されることとなりました。

私たちは自民党はこれらの問題に真摯に対応してまいりましたが、さらに根本の敗因を考えますと、小泉・安倍内閣が進めてきた構造改革や財政改革に突き当たり、たしかに小さな政府を目指し、

はじめ新報をご覧の皆さま、新年明けましておめでとうございます。昨年は統一地方選があり、私たちの仲間の議員を大勢当選させていただきました。しかし参議院選挙は「政治とカネ」の問題や年金記録問題で、与党自民党には逆風が吹き荒れ、歴史的な大敗を喫してしまいました。この反省に立ち、私たちは改革の方向性は保ちつつ、その程度やスピードをもう少し緩め、あたたかい政治を再構築する努力を続けていきます。また衆参ねじれ状態に陥った国会の機能不全を打開するため、野党との話し合いを模索していかねばなりません。私たちに厳しい環境が続きますが、今年も干支に因んで「こま鼠」のように、立ち止まらずに全力疾走してまいります。今年も皆さまのご指導・ご鞭撻をくれぐれも宜しくお願いいたします。

700兆円にも達する巨額の借金を抱えた国・地方の財政を立て直すためには、不可欠の改革です。しかしながらその進め方に、やや強引であったり急ぎすぎたりした側面があり、そのことが格差の拡大につながったと認めざるをえません。私たちはこれを反省して、生産調整農家のメリットを拡大し、高齢者医療や障害者の施設利用における自己負担を圧縮し、地方財源の確保を図るなど、目に見える修正を行いました。

国会情勢も風雲急を告げております。いつ解散があっても不思議でない状態が続きます。皆さまの更なるご支援とご鞭撻を切にお願いいたします。

(国会通信 平成19年11月26日より)

700兆円にも達する巨額の借金を抱えた国・地方の財政を立て直すためには、不可欠の改革です。しかしながらその進め方に、やや強引であったり急ぎすぎたりした側面があり、そのことが格差の拡大につながったと認めざるをえません。私たちはこれを反省して、生産調整農家のメリットを拡大し、高齢者医療や障害者の施設利用における自己負担を圧縮し、地方財源の確保を図るなど、目に見える修正を行いました。

「ハンセン病患者さんへの謝罪」  
先日私は、宇都宮で開催された人権教育プログラムで、ハンセン病施設の一つ、「多磨全生(ぜんしょう)園」の元自治会長である森本さんのお話を聞きました。ハンセン病(かつては「らい病」)の存在を私が知ったのは、高校一年のときに見た映画「ベンハー」でした。名優チャールトン・ヘストン演じる英雄ベンハーの母親と妹がらい病に罹り、町から遠く離れた洞窟に身を隠していたところ、イエス・キリストが十字架に貼り付けられ昇天する際に、奇跡的に治ったという逸話です。

その後の医学の進歩により、数十年前からハンセン病の特効薬も開発され、不治の病ではなくなりました。ところが隔離措置が必要なくなっても、日本では措置が継続され、多くの患者さんの人生を長年に亘って狂わせてしまいました。国会でこの不合理さが指摘されたのはわずか十年ちよつと前のことで、隔離措置の根拠になっていた「らい予防法」が全面改正されたのも、ようやく1996年になってからでした。医学的にはとくに不治の病ではなくなっていたのに、隔離という状況を放置してしまつたのは、明らかに国会の「立法の不作為」であり、法改正当時も国会全体で謝罪しました。